

DITR4401 マットフィルム 取扱い注意点

DITR フィルムの特徴

DITR4401 マットフィルム感光膜の主材料はニトロセルロースで、画像は染料で出来ています。

従来の銀塩製版フィルムは、感光膜面の主材料はゼラチン、画像は銀で出来ていますので、それとは表面の物性や耐薬品性が異なります。

DITR4401 はレーザーが照射された部分が瞬間的に高熱になり、膜面が剥がれる（ごく小さい粒や気体になる）ことで現像処理無しで画像がつけられます。細いシャープなビームのレーザー光で露光され、感光膜内での散乱が少なく、解像度が高くシャープな画像になります。

取扱い上特に注意して頂きたい点

このように優れたシャープな画像が得られますが、使用している材料の違いにより注意して頂く点が多くあります。

感光膜に使用されているニトロセルロースは、従来の銀塩フィルムのゼラチンに比べると柔らかく、表面が擦られた場合、キズが付きやすいものです。ゼラチンは水に濡れると非常に柔らかく、自動現像機処理中にキズがつく場合がありますが、乾くと硬くなりキズもつきにくくなります。

また、ニトロセルロースは溶剤に溶けやすい性質があります。従来の銀塩フィルム用フィルムクリーナーは、ニトロセルロースを溶かす溶剤成分を含むものがほとんどで、使用出来ない場合が多くあります。

① 光面（画像面）の見分け方

光沢の少ない面が感光面（画像面）になります。

② フィルムの持ち方

フィルムは指紋などがつきやすい傾向があります。また感光面に付いた場合、それを取り去りにくい場合があります。これは使用出来るフィルムクリーナーに制限があるためです。

指紋を防ぐためには、作業にビニールやナイロン製の繊維の出ない手袋の使用するか、フィルムの絵柄の外を持つようにして下さい。

③ フィルムを輸送される場合などのキズ防止

感光膜面の滑りを良くし、軽い擦れによるキズがつきにくく考慮しています。しかしゴミなどやフィルムの角など硬く鋭利なものが触れた場合には、キズが付きやすい傾向があります。

- ・シートを重ねる場合は間に薄い紙を入れ、輸送中などに動かないよう固定し、フィルムどおしが擦れないように注意願います。
- ・大サイズのシートを丸めなくては運ぶことが出来ない場合は、必ず感光面（画像面）を内側にして巻いて下さい。
この場合も薄紙を間に挟むようにすると、キズ防止に効果的です。
- ・保護シート*を感光膜面に貼ることで、輸送中のキズ発生を防止出来ます。
*例) 株式会社きもと様製品 プロセーブ LS50 をフィルム露光後貼り、版露光前に剥がします。
保管用に再貼付も可能です。
- ・塩化ビニル製の袋の使用は避けて下さい。フィルムが付着する場合があります。

④粘着テープ留め

テープは粘着力の弱いものをお使い下さい。なるべくベース面（裏面）にテープ留めして下さい。

⑤フィルムクリーナー

膜の主成分、ニトロセルロースは、ゼラチンよりも溶剤に溶けやすい性質をもちます。
また、画像をつくる染料は水に溶けやすいものです。

- ・一般のフィルムクリーナーやアセトンなどの強い溶剤では、膜面が剥がれる場合があります。
- ・水や、水とアルコール混合物は使用しないで下さい。
- ・アルコール（エチルアルコール）は、その純度により異なりますので、事前に切れ端などで確認して下さい。
- ・現在国内で販売されているフィルムクリーナー等で使用可能なことが確認されている製品は下記です。

光陽化学株式会社 フィルムクリーナーNF-7 （ドライフィルム用）

同社 シリンダークリーナーNC-11

NF-7 はドライフィルム用に用意されていますが、代替フロン使用で、今後の生産はありません。NF-7が入手できない場合はNC-11をお勧めします。

NC-11 はカラスキャナーの樹脂製シリンダー用ですが、ドライフィルムクリーナーとして効果があることが確認されています。

⑥オペーク

感光面のオペークする場合は、水性オペークをご使用下さい。

裏面にオペークする場合は、溶剤タイプも使用可能です。裏面はポリエステルベースそのものですので溶剤に溶けやすい成分はありません。

以上